

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 日本・ASEANユースリーダーズサミット
- 4 第19回青少年国際交流全国フォーラム(沖縄大会)
- 6 第6回SWYAA国際大会(バーレーン)
- 8 IYEOの東日本大震災復興支援活動への取組
- 10 Air-Net Talk (バルト三国料理教室)
- 11 ドミニカ共和国派遣団OB・OGの活動
- 12 コア派遣3分野の最新動向と情報交換会

マクロコズム

日本・ASEAN ユースリーダーズサミット

平成24年10月27日(土)～30日(火)、「東南アジア青年の船」事業の国内プログラムの一環で東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「日本・ASEANユースリーダーズサミット」が開催されました。日本とASEAN各国間の連携を強化するために、より多くの青年が日本とASEAN各国を結ぶネットワークに参加することを目的として行われたディスカッションと文化交流を中心とした合宿型プログラムです。日本で公募されたローカルユース113名、「東南アジア青年の船」事業の参加者324名及び実行委員や運営関係者約90名が参加しました。

【開会式】

秋篠宮妃殿下、日本政府代表、駐日ASEAN各国大使並びに関係者の出席のもとで、開催されました。また、参加青年を代表し、ラオスのユースリーダー、マイヴァ・ユアトングシェンさんがあいさつしました。

日程

日付	活動内容
10月27日 (土)	ローカルユース事前研修
	オリエンテーション、ディスカッション講座 パフォーマンス打合せ・練習
10月28日 (日)	ローカルユース事前研修
	ディスカッション・グループ活動
	「東南アジア青年の船」事業参加青年入所 全体オリエンテーション
	ディスカッション・グループ活動
10月29日 (月)	「日本・ASEAN文化交流プログラム」準備
	「日本・ASEANユースリーダーズサミット」開会式
	「日本・ASEAN文化交流プログラム」 各国紹介パフォーマンス、各国紹介ブース展示
	交流の夕べ
10月30日 (火)	基調講演 講演者：明石康氏(公益財団法人国際文化会館理事長、元国際連合事務次長) テーマ：“Leadership for the Global Society”
	ディスカッション・グループ活動、サマリー・プレゼンテーション
	ローカルユース修了式、歓送会



秋篠宮妃殿下の御臨席を賜る

【基調講演】

“Leadership for the Global Society”というテーマで、公益財団法人国際文化会館理事長、元国際連合事務次長の明石康氏による基調講演が行われました。明石氏は、1957年以来40年にわたって、日本人初の国際連合職員として活躍されました。また、1992年には、カンボジア暫定統治機構事務総長特別代表も務められました。

この講演は、「青年の社会活動への参加ーリーダーシップを発揮して」というディスカッション活動の基盤とすることをねらいとして実施されました。尚、講演内容はマクロコズムvol.102に掲載いたします。



明石康氏による基調講演



基調講演後の質疑応答で質問するインドネシア参加青年

【日本・ASEAN文化交流プログラム】

“Welcome to Real Asia!” をテーマに、第1部では各国3分間のパフォーマンスと11か国の参加青年とローカルユースによる合同パフォーマンスが行われました。第2部は、国ごとのブース展示があり、各国の事情について理解を深める良い機会となりました。開会式及び「日本・ASEAN文化交流プログラム」には、来賓、関係者、一般の方々を含め、約200名が参加しました。



シンガポール参加青年によるパフォーマンス



ブースを訪れた来場者に自国の説明をするマレーシア参加青年



ブースを訪れた来場者にバンブーダンスを教えるフィリピン参加青年

【ディスカッション・グループ活動】

「青年の社会活動への参加ーリーダーシップを発揮して」というテーマのもと、八つのグループに分かれて実施されました。各国の青年が、社会を創る当事者である若者の役割と可能性について討議することによって、青年が社会活動に参加する意義を理解し、自らも社会の一員としてより良い社会を築くために何ができるか認識し、さらに、自らがリーダーシップを発揮して活動することの重要性を話し合いました。



ディスカッションの導入として、二人一組になってお互いの良い点を1分間で褒める



自らの社会活動体験について共有する

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第28回全国大会 第19回青少年国際交流全国フォーラム 沖縄大会



平成24年12月8日(土)～9日(日)、沖縄県糸満市にて、第19回青少年国際交流全国フォーラム、日本青年国際交流機構(IYEO)第28回全国大会を実施しました。大会テーマは、「ふれ合おう ちむぐる 深めよう ゆいま～る」。「ちむぐる」とは真心、つまり、他人を思いやる、優しくきれいな心のこと。「ゆいま～る」とは、お互いに助け合う相互扶助のことを表しています。本大会は、基調講演や分科会を通して、沖縄の精神にふれ、参加者自身の地域活動、国際交流活動をより豊かなものにするための気づきや情報交換の場となることを目指して、実施されました。

大会日程

第1日目・12月8日(土)	
12:30	受付
13:30	開会式
14:00	基調講演「沖縄のころと うちなーぐち(沖縄語)」 比嘉 光龍(ふいじゃ ばいろん)氏 唄三線者、沖縄大学地域研究所特別研究員
15:30～18:30	分科会
19:30	懇談会
第2日目・12月9日(日)	
9:00	表彰式
9:30	各都道府県及び個人の事後活動紹介
11:00～11:15	閉会式
11:30～	地域理解研修



開会式であいさつする(財)青少年国際交流推進センター上村知昭理事長

■基調講演



比嘉光龍氏による「沖縄のころと うちなーぐち(沖縄語)」に関する基調講演
(講演内容はマクロコスムvol. 101に掲載予定)



質疑応答の際に質問する参加者



分科会

文化を体験する	
A	オキナワ空手体験 ～空手に学ぶ「他己理解」 空手体験を通して、「不戦の美德」や「諸外国から様々な技を学び独自の武術に昇華させたチャンプルー精神」など、沖縄が空手を通して実践してきた「他者との繋がり」を学ぶ。
B	エイサー体験 ～エイサーで繋ぐ地域と世代 エイサーとは、沖縄の盆踊りにあたる勇壮な太鼓踊り。地元の青年会から講師を招き、地域の絆、青少年育成にエイサーがどのように活用されているかを学ぶ。エイサー太鼓（パーランクー）を使って、踊りも体験する。
C	沖縄の心 三線（さんしん）入門 ～人々の生活とともに 沖縄の人々に親しまれている楽器、三線。その三線を実際に演奏し、沖縄の歴史と文化に触れる。
D	うちなーぐち入門 ～語る伝える美（ちゅ）ら言葉（くとぅば） 「うちなーぐち」会話の入門編。簡単な自己紹介やあいさつの表現を学ぶ。言葉は文化であり、アイデンティティであることを再認識する。
E	伝統工芸体験 ～アジアとの交易で栄えた琉球文化 紅型、琉球ガラス、首里織、壺屋シーサーなど、沖縄の伝統工芸体験を通して、アジアとの関わりの中で育んだ文化について学ぶ。
食を体験する	
F	ゆし豆腐から生まれる地域の絆と伝統 豆腐作りを通して、子供たちが自分自身や地域に誇りを持てるよう活動する地元公民館で、実際に豆腐作りを体験する。
G	泡盛は交易の要！? 地元の酒蔵を訪ね、泡盛の歴史的背景や琉球王朝時代の交易の広がりについて学ぶ。
平和を学ぶ	
H	ひめゆりの語りべと、その孫たち ～ひめゆりの塔 戦争の悲しみを風化させまいと取り組む地元青年たちと一緒にひめゆり資料館を訪ねる。実際に戦跡を見て、語りべに耳を傾け、次世代に平和を伝え続ける意味を学ぶ。
I	摩文仁の丘に想う歴史の伝え方 ～平和祈念公園 「家族に語り継ぐ平和のウミ（想い）事業」に関わる地元青年と一緒に平和祈念公園を訪れ、「次世代へ想いを継承する」ことについて考える。
歴史を歩く	
J	「守礼の邦」の心得 首里城公園の各史跡を巡りながら、地元住民ガイドによる歴史の裏話を聞くことで、激動の時代をくぐり抜けた首里城、及び沖縄の人々の精神を学ぶ。
K	うちなーで昇華した中国建築 地元住民ガイドと識名園内を巡りながら、程よく日中両国の文化を取り入れ、独自の発展へ繋げた沖縄と他国・隣国との関わり方を探る。



エイサー太鼓を使って勇壮な太鼓踊りを体験する(分科会B)



「うちなーぐち」による簡単な自己紹介やあいさつを学ぶ(分科会D)



沖縄の伝統工芸である首里織を体験する(分科会E)



那覇市繁多川公民館にて、大豆を石臼で引きわって、ゆし豆腐を作る(分科会F)

表彰式

平成24年度日本青年国際交流機構(IYEO)表彰者

氏名	所属IYEO	参加事業
寺下 英明	埼玉県	第4回青年の船(1970)、第2回東南アジア青年の船(1975)、第6回国際青年育成交流(1999)タイ団長/第10回(2003)トルコ団長、第24回日本・中国青年親善交流(2002)団長
奥野 照義	東京都	第1回青年の船(1967)、第11回青年の船(1977) 第31回日本青年海外派遣(1989) オセアニア団長
大谷 直義	大分県	第12回青年の船(1978)
玉城 佑春	沖縄県	第5回日本青年海外派遣(南米)(1963)
佐伯 洋昌	宮城県	第1回青年の船(1967) 第9回青年の船(1975) 班長
藤永 郁智	福岡県	第18回青年の船(1984)
星子 英子	大分県	第10回日本青年海外派遣(北欧)(1968)
知念 正	沖縄県	第13回青年の船(1979) 第20回青年の船(1986) 班長



日本青年国際交流機構表彰者

閉会式



閉会式であいさつする青木剛志沖縄大会実行委員長と実行委員

第6回「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)国際大会 6th SWYAA Global Assembly(バーレーン)



第6回SWYAA国際大会は、2012年10月4日～8日にバーレーン王国で開催され、21か国から118名が参加しました。

開会式は、ハマド国王の四男で青年スポーツ最高評議会議長であるナーセル殿下の後援を受けて盛大に開催され、ナーセル殿下や在バーレーン日本大使館の角大使にごあいさついただきました。また、久津摩青年国際交流担当参事官があいさつするとともに、中塚大臣のメッセージを披露しました。事後活動協議会では、各国の事後活動組織で実施しているプロジェクトや個人の活動の発表が行われ、参加者は、事業で培った絆や今後の活動の発展を深く認識する機会となりました。また、事後活動組織と政府の協力のもと、4箇所に分かれての課題別視察、イスラムについて学ぶ施設の見学、古代ディルムン文化について学ぶ史跡の見学などの活動が実施され、バーレーンの文化と歴史を知るすばらしい機会となりました。



開会式には青年スポーツ最高評議会議長のナーセル殿下に御臨席いただき、アラッド要塞で盛大に開催された。

スケジュール

日付	プログラム
10月4日 (木)	オリエンテーション、バーレーン国立博物館訪問、バーレーン要塞、開会式(アラッド要塞)
10月5日 (金)	石油博物館訪問、F1サーキット、王家馬術クラブで伝統的な夕食
10月6日 (土)	コーラン博物館、アルファター・モスクの見学 事後活動協議会(東京連絡会議報告、各国の事後活動事例紹介)
10月7日 (日)	課題別視察 ①湾岸石油化学工業会社(GPIC) ②バーレーン大学 ③女性最高評議会 ④ムハラク高齢者社会福祉センター
10月8日 (月)	ムハラク旧市街地散策ツアー 閉会式(修了証の授与)、フェアウェルディナー 解散

■ 事後活動協議会で発表された各国の活動(抜粋)

- ・バーレーン：恵まれない家庭の家の清掃、病院にいる子供たちを訪問、ソマリアの飢餓に苦しむ人々を支援、ミャンマーのアラカン難民の支援、シリア戦争難民の支援等の活動を実施。
- ・オーストラリア：既参加青年から本の寄附を集めてフィジーに図書館を建設。
- ・ギリシャ：Homestay+1の活動を活発に実施。「SWYAA Radio」という既参加青年の交流促進のための24時間態勢のウェブラジオの立ち上げ。
- ・日本：「One More Child Goes To School」というスリランカの教育支援プログラムを継続。東日本大震災復興支援プロジェクトを各地域で活発に実施。
- ・ケニア：既参加青年が運営しているスラム街にある学校へのサポート、清掃活動や収入源を確保するために手作りのアート作品やアクセサリーの販売も実施。
- ・オマーン：東日本大震災の被災地である福島から子供たちを2週間受入れ。「SWYAA オマーンの日」として、ラマダン中に社会貢献活動を実施、外国人労働者への食事の提供などを実施。
- ・ペルー：Homestay+1のプロジェクトやチャリティコンサートを開催。Learn Live Loveのプロジェクトにも参加。
- ・スペイン：「世界青年の船」事業や青年の社会参加について、会議や学園祭で紹介。
- ・トルコ：ヴァン地区大震災の被災者支援活動を実施。
- ・UAE：シャルジャで子供たちにリーダーシップとチームワークを教えるサマーキャンプを開催。
- ・ベネズエラ：Learn Live Loveという貧困と貧困層と社会的に疎外された人々をなくすことを目的とした青少年育成の教育プログラムを実施。
- ・イエメン：環境保護のための草の根活動として世界規模で行われている「350.org」の活動への参加。恵まれない人々への食料と服の寄附、献血、街の清掃活動等を実施。



21か国から118名が参加(バーレーン要塞の前にて)



湾岸諸国で最初に石油が発見された油井と併設された石油博物館を視察。



イスラムの文化や思想についてアルファター・モスクで学ぶ。



世界で初めて印刷されたコーランなど、世界各国から集められたコーランの博物館を見学。



事後活動協議会では、各国の事後活動について報告し、情報共有をした。



課題別視察でムハラク高齢者社会福祉センターを訪問し、この施設の活動概要などについてお話を伺う。



課題別視察で湾岸石油化学工業会社 (GPIC) を訪問し、企業概要とGPICが取り組んでいるCSRについて学ぶ。

■ 感想(一部抜粋)

バーレーンにてSWYAA国際大会(GA)が開催された。開会式は、幻想的なアラッド・フォート(砦の跡)にて伝統的な音楽やダンスがエキゾチックな雰囲気盛り上げ、連日メディアなどにも多く取り上げられる程、国を挙げての大歓迎であった。御臨席されたナーセル殿下は、世界中の青年たちに恩恵をもたらすこの事業を支援している日本政府に対し感謝の意を表し、GAは協力の重要性、理解、異文化交流、寛容性など共有しながら世界中の青年たちを育成することができるユニークな機会だと高く評価をした上で、バーレーンにてGAを開催することができ大変光栄だと語られた。

残念ながら日本で聞く中東のニュースは危険なイメージが多いので、私自身、初めてのの中東訪問に多少の不安を感じていた。しかし、バーレーン既参加青年たちの献身的で心温まる歓待、そして日本で抱いていたイメージとはかけ離れた安全で穏やかに生活している人々の姿を実際に見ることができ、国や人への印象はがらりと

日本青年国際交流機構会長 大河原 友子

変わった。改めて「百聞は一見にしかず」ということを身をもって体験し、ステレオタイプで物事を判断してはいけないと強く感じた。

事後活動協議会では各国の事後活動組織から社会貢献活動の報告があった。また、既参加青年たちは、この事業は世界中に日本ファンを作り、未来を担う有能な青年育成に多大な貢献をしている。世界各地に日本の理解者である多彩な人材を輩出することは日本の国益となるなどと力説した。自分たちを成長させてくれた「世界青年の船」事業を継続させるために今まで培ってきた世界中のネットワークを最大限にいかしながら社会に貢献し「世界青年の船」事業の価値を日本政府にアピールしていくと力強く言ってくれたのが印象的だった。

最後になりますが、第6回GAを大成功に導いた、バーレーン政府及び事後活動組織の多大なる御支援、御協力に心から感謝いたします。シュクラン。



日本青年国際交流機構 (IYEO) の 東日本大震災復興支援活動への取組

平成24年4月から平成25年1月の活動報告

IYEO東日本大震災復興支援活動募金は平成24年度も継続しています。寄付金は、被災県IYEOでの活動を中心とした復興支援プロジェクトに充てます。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

※ゆうちょ銀行間送金の場合 (ATM 使用で送金手数料無料)

口座名：日本青年国際交流機構 記号 10130 番号 81644051

※他金融機関からの送金の場合

口座名：日本青年国際交流機構 店番号 018 (ゼロイチハチ) 普通預金 口座番号 8164405

【お願い】送金の際は、送金者名にグループ名(又は個人名)と代表者名をご記入ください。送金と併せて、以下のアドレスにグループ名、代表者名、代表者連絡先(メールアドレスと連絡先電話番号)をお送りください。加えて、ウェブサイトでの寄付者名公開を希望されない場合は、その旨を記載してください。連絡先 iyeobokin@iyeo.or.jp

IYEO東日本大震災復興支援活動募金収支報告

IYEO東日本大震災復興支援活動募金

平成25年1月15日現在

一収入の部一

(単位：円)

科目	実行額	備考
寄付金(団体)	9,958,083	団体
寄付金(個人)	5,190,892	個人
収入合計(A)	15,148,975	

一支出の部一

(単位：円)

科目	実行額	備考
1.支援金	5,792,880	岩手県IYEO、宮城IYEO、船と翼の会ふくしま、飯舘村、陸前高田市教育委員会
2.支援物資	2,391,077	生活必需品、衣服、靴、寝具、食料品、衣料品等
3.事務経費	133,390	送料など
4.義捐金	6,323,020	岩手、宮城、福島の被災者会員宛て15名に基本4回支払い
支出合計(B)	14,640,367	

残高：(A) - (B) = 508,608

岩手県青年国際交流機構(岩手県IYEO)

- 岩手県IYEOでは、4月～11月に支援活動の主軸である「IYEO縁側カフェ」(7回)、復興祈願を目的とした地域のイベントや活動への参加協力(4回)、「有給休暇で世界一周した男」坂本達さんのチャリティトークイベント等に取り組んできました。これらはほとんどすべてがIYEO関係者の協力で実現しています。
- 「縁側カフェ」には、地元の高校生の他、全国各地のIYEOメンバー、Action for Japan・UKに参加する英国人大学生(「世界青年の船」事業既参加者のコーディネートにより実現)やウガンダで働く「世界青年の船」事業既参加青年など県外からも多くの方が参加し、活動してくれました。このように遠方から時間とお金をかけ、コーヒーや菓子だけでなく「気持ち」を届けてくれる行動、また、直接の参加

でなくても日々届けてくださる物資や応援メッセージ、各地で展開している活動などすべてが震災を乗り越えようと努める方々だけでなく、活動する私たちにとっても大きな励み、支えであることを折に触れ実感しています。そして、IYEOのネットワークと気品ある意識に感銘を受けずにはいられません。

- 地域によっては高台移転が決まるなど少しずつ前進の兆しが見えたり、見えなかったり、時間と共に新たな問題が浮上していたりしています。その時その地域の状況を察しながら、IYEOで学んだ多様な柔軟な思考、チャレンジ精神を大事に「つなげる役割」を担いながら、今後も活動に臨みます。



田野畑村での「IYEO縁側カフェ」での笑顔



青空のもと、英国人大学生に紅茶を入れてもらう

9月17日(月・祝)、日本橋社会教育会館7階料理教室(東京都中央区)にて、バルト三国料理教室が開催され、およそ30名が参加しました。この料理教室は、航空機による派遣事業の既参加青年の交流を目的としたAir-Net Talkの一環として、バルト三国派遣OB・OGネットワークが主催しました。

日本人にとってあまりなじみのないバルト三国(エストニア、ラトビア、リトアニア)をおいしい料理を通じて、その雰囲気を知ってもらうため2名の在日ラトビア人の先生に教わりながら、ラトビアの家庭料理であるビーツの冷性スープとジャガイモたっぷりのポークカツレツ風豚肉料理を作りました。

参加者の中にはバルト三国について詳しく知らない方も少なくありませんでしたが、今回の料理教室に参加して、「バルト三国に行きたくなった」「また家でも作ってみたい」「リガコレクション(バルト三国の雑貨を扱う店)に今度行ってみる」といった声も聞かれ、多くの方がバルト三国に興味を持つようになりました。



レシピ1

ビーツのスープ Aukstaa Zupa (The Cold Soup)

【材料】(4~5人分)

ビーツ1/2個 レモン汁、砂糖、塩少々(A)

卵2個 キュウリ1/2本

ディル3束 万能ねぎ1本

ヨーグルト: 300~400g (※あればケフィア・ヨーグルト)

塩少々(Aとは別分量)

【作り方】

- ①ビーツをオロシ器(もしくはフードプロセッサー)で少し繊維が残る程度にすりおろす。
- ②(A)レモン汁+砂糖+塩を①に少々加えて、冷蔵庫で2時間程度休ませる。
- ③ゆで卵を作る。
- ④キュウリを拍子切りにする。ゆで卵、ディル、万能ねぎを細かく刻む。
- ⑤2時間冷やしたビーツの入ったボールに他の材料をすべて混ぜ合わせる。
- ⑥塩やレモンを加えて味を調整する。
- ⑦さらに冷蔵庫で30分ほど冷やして、完成。



テーブル内で手分けして調理する

レシピ2

ジャガイモたっぷりのポークカツレツ風豚肉料理

【材料】(4~5人分)

豚肉(ロース用)4~5枚 卵2個

小麦粉適量 ジャガイモ3~4個

玉ねぎ1/2個 塩、胡椒適量

【作り方】

- ①ボールに卵、小麦粉、塩・胡椒を入れ、混ぜる。
- ②玉ねぎを炒める。
- ③じゃがいもを炒める→塩・胡椒で味を調える。
- ④別のフライパンで、①をくぐらせた豚肉を炒める。
- ⑤火が通ったら、ジャガイモ+玉ねぎと一緒に盛りつける。



色鮮やかなビーツに興味津々



調理待機中に他の参加者と懇談する



丁寧に素材を炒める



できあがった料理を楽しくいただく

ドミニカ共和国派遣団OB・OGの活動

第4回港区ものづくり・商業観光フェア

11月9日(金)～10日(土)の2日間、ドミニカ共和国大使館からの依頼により、東京ミッドタウンで行われた「第4回港区ものづくり・商業観光フェア」にて、ドミニカ共和国大使館ブースのお手伝いをしました。

イベントには港区にある大使館や民間企業が出展した中で、伝統的なカーニバル衣装を飾って人目をひいたドミニカ共和国大使館ブースでは、ミゲル・バラゲール公使参事官と共に、派遣団OB・OG8名が、訪れる人に同国の魅力や特産品を紹介しました。ブースには、大使館の御理解も得て、内閣府青年国際交流事業やIYEOのパフレット、昨年の派遣団が2月の報告会で展示した手作りの模造紙も飾り、事業紹介も行わせていただきました。

今回のように、大使館から直接協力依頼をいただけるのは、内閣府青年国際交流事業で、ドミニカ共和国との交流が長年続いていて、事前研修で大使館訪問をしたり、その後OB・OGが地道な事後活動を行ったりと、ドミニカ共和国の皆さんの信頼を得てきたことが実を結んだと言えると思います。



ドミニカ共和国のフェアトレードのカカオ豆を使用したチョコレートを紹介



ドミニカ共和国の名産品と共に、内閣府青年国際交流事業のパフレットを置かせていただく

ドミニカ共和国 料理教室

寒い冬に・・・モツ煮込みシチュー

11月25日(日)、日本橋社会教育会館で、ドミニカ共和国派遣団OB・OGの企画運営によるドミニカ共和国料理教室が開催されました。講師は、ドミニカ共和国北西(ハイチとの国境近く)に位置するダハボン出身で、現在日本在住のセノビア・コロンさんをお迎えしました。派遣団OB・OGを中心に、その友人や、同国以外に派遣された今年度の参加青年など、総勢18名の参加者で料理と試食を楽しみました。

メニュー：

- ①モンドンゴ(ひよこ豆入りモツ煮込みシチュー)
- ②ルロ・フリト(バナナの素揚げ)
- ③アロス・フリト(フライドライス)
- ④マイル・コン・レチェ(とうもろこしをクローブ、シナモン、牛乳で煮込んだデザート)
- ⑤サントドミンゴ・コーヒー(ドミニカ共和国特産コーヒー)



モツ煮込みシチューをかけたフライドライスにバナナを添えて

モツ煮込みシチューは、セロリ、コリアンダー、ピーマン、ニンニクなどを炒めたところに、柔らかく下ゆでしたモツ肉、トマトペースト、コンソメ、ひよこ豆などを入れじっくり煮込んだもの。タバスコのぴりっとした辛さが味を引き締めていました。またフライドライスは、お米を油で炒めてからお湯を注いで鍋で炊く…という、日本とは異なる調理方法を教えていただきました。先生の解説と共に、楽しみながらドミニカ共和国の食文化に触れることができました。

試食時には、セノビアさんから日本語の「いただきます」や「ごちそうさま」に相当するスペイン語を習いました。「Buen tiempo」・・・ブエン・ティエンポ。食事の前後に、同じテーブルについた人にかける言葉で「よい時を！」という意味だそうです。



料理の盛り付けは、先生をお手本に

「ブエン・ティエンポ!!」(よい時を)

コア派遣3分野の最新動向と情報交換会 ～ 10周年の集い及び帰国報告会～

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」が10周年を迎え、専門分野で活躍している既派遣者が、各分野の最新動向を共有し、派遣年次・分野を超えて情報交換を行い、今後のネットワーク強化につなげることを目的に、平成24年12月1日(土)、2日(日)、日本青年国際交流機構(IYEO)主催で「コア派遣3分野の最新動向と情報交換会」が開催され、32名が参加しました。

平成23年12月10日(土)、11日(日)に行われたプレ10周年の集い後1年間のそれぞれの活動を共有する場となり、既派遣者としてのプロジェクト案がかなりまとまりつつあります。

今回の帰国報告会には、既派遣者以外の参加もあり、派遣国での取組を共有し、今後日本でどのように活用していくのかを提起する場となりました。既派遣者の集いは、今後も定期的開催する予定です。

平成16年度オーストラリア派遣団(青少年分野) IYEO組織担当幹事(コア担当)

福田 達男

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」もやっと10周年をむかえ、今後、帰国報告会やチャレンジ・ファンドを活用した事後活動など、広く一般の方にも参加いただける活動を行っていきたく考えています。活発な事後活動に向け、皆様からの一層の御指導お願い申し上げます。

平成24年度デンマーク派遣団(障害者分野)

河本 真代

「障害者が一人一人に合った支援を受けて自立した生活を送る。そのためのアイデアを得て後に繋げたい」

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」への参加目的自体が事後活動を前提としたものだったので、改めて「事後活動」と銘打たれると、何をすればいいのか、自分は何ができるのかと、帰国後の約一か月、五里霧中の日々でした。

「一歩踏み出すと新しい世界が開ける」今回の派遣で得た大きな学びです。それを思い出し、参加してみることにしました。

先輩方の日々の活動を踏まえた自己紹介や活動報告には、事後活動や日々の課題解決へ向けたヒントが散りばめられていました。これを聞くだけでも「コア派遣3分野の最新動向と情報交換会」に参加した意味があったというのが率直な感想です。後の報告会では、私自身の発表の持ち時間が5分。短時間に派遣報告をまとめることで、学びの再確認と整理の良い機会となりました。他派遣団の発表は帰国直後よりじっくり聞くことができ、各国の工夫からも学びが多くありました。

それらを通して、事後活動とは改めて看板を掲げなくてもよさそうだと理解すると同時に、冒頭の個人的な事後活動に対するイメージを掴んで帰ることが、私のテーマになりました。特に「地域でいかす」にはどうしたらよいか。思い切って現状を打ち明けると、参加者皆さんの仕事や事業参加後の経験を踏まえた助言、他団体との連携のポイントなど様々な指南をいただきました。お土産を持ち帰るばかりでよいのかと恐縮しつつ、皆様のおかげで有意義な2日間となりました。今回の参加でいただいた今後につながるたくさんの具体的なアイデア。これを基にさらに一歩踏み出せそうです。

日程

	日時	内容
12月1日 (土)	13:00～13:30	開会式
	13:30～14:40	全体会① プレ10周年(平成23年12月10日～11日実施)からの動き プロジェクト案への意見交換
	14:40～15:00	Tea time
	15:00～18:00	平成24年度派遣者からの帰国報告会 派遣国: 高齢者分野 英国 障害者分野 デンマーク 青少年分野 ドイツ 派遣期間: 平成24年10月7日～16日
12月2日 (日)	19:00～21:00	懇親会
	9:00～11:45	全体会② 人材育成 今後のネットワーク
	11:45～12:00	閉会、解散



英国派遣団(高齢者分野)による帰国報告



デンマーク派遣団(障害者分野)による帰国報告



ドイツ派遣団(青少年分野)による帰国報告



宮城青年国際交流機構(宮城IYEO)

- 9月22日(土)～23日(日)、北海道・東北青少年国際交流を考える集い(ブロック大会)を支援先の一つである浦戸諸島桂島で開催し、全国から約70名の方に参加いただきました。現地を視察し、被災された島民の方々との交流を通して、「震災の大きな爪痕の深さ」「復興の在り方」「人のつながり」などについて改めて考えました。
- 元石巻市立病院看護師の及川敦子さんが、被災者に寄り添った支援をするため、「てあーて」という団体を立ち上げ、今春に訪問看護ステーションを始めます。最終的に複合型サービスを開発し、地域コミュニティ作りを目指しています。想いだけは強い「ゼロ」からの出発です。
- 11月16日(金)、「東南アジア青年の船」事業の既参加青年である坂本達さんの講演会を、同じ事業の既参加青年である石原幸子さんの勤務先の仙台市立高森中学校で行いました。1年生93名に「夢を持つこと」や「あいさつの大切さ」などを伝え、中学生の心に響いていたようです。



仙台市立高森中学校での坂本達さんによる講演会

- 10月に「青年社会活動コアリーダー育成プログラム(ドイツ派遣)」に参加した伊勢みゆき副会長のつながりで、ハンブルクでお世話になったドイツ青年が11月17日(土)に宮城を訪問。亘理町の仮設住宅で行っている手仕事プロジェクトで作った作品を手渡したのが縁で仮設住宅を訪問し、震災の翌日に生まれた男の子やその家族、手仕事プロジェクトの方々と交流しました。同事業のドイツ派遣団団長を務められた佐藤恵一IYEO副会長が山形からかけつけてくれました。



亘理町の仮設住宅にて初めての国際交流

船と翼の会ふくしま

- 復興支援ぞうきんプロジェクトを継続中です。(2枚組100円 問合せはkands20504@heart.ocn.ne.jpへ)
- 8月5日(日)、郡山市でボランティア勉強会を開催しました。支援者がしたい支援をするのではなく、支援される人のニーズに合った支援の重要性をお伝えし、「復興支援ぞうきんプロジェクト」でお世話になっている被災された方の話を聞きました。他団体と協働することで、私たちの団体の弱点を補う活動ができました。また、国際交流活動を通して身につけた強みをいかし、本当に必要な支援を心がけることもできました。
- 11月14日(水)、福島市で「福島とアフリカ いっしょに元気になろう！」プロジェクト坂本達氏講演会を開催しました。福島は原発事故の影響で、閉塞感が漂っています。そんな中、世界中からの支援に感謝し、支援を受けた経験をいかし、支援とはどうあるべきかを考え、アフリカ・カメルーン共和国のNGO「Kentaja」を支援することにしました。「福島

とカメルーン、いっしょに頑張ろう! いっしょに元気になろう!」という私たちの思いを福島の人に伝えたく、どんな状況でも夢や目標を持ち、仲間と共に前に進む大切さについてお話いただきました。「経験は誰にも奪うことはできない」という坂本さんの言葉に勇気づけられ、震災の経験をも自分たちの力にして、より良い明日のために努力していきます。



坂本達さんの講演から、夢や目標を持つことの大切さを学ぶ



復興支援ぞうきんプロジェクトのぞうきんを縫う

事務局の連携活動

- 11月、IYEO会員からの紹介で、IKEA Food Japanのクラッカー(764個入り、5ケース)が寄付されました。岩手県、福島県、宮城県に送られ、以下の団体、個人を通じて、児童館や学童保育の子供たちなど必要としている方へ届けられました。
岩手県: ハーティネットとうわ、田野畑村社会福祉協議会、釜石市保健福祉センターなど(田野畑、大船渡、陸前高田、久慈)仮設住宅
福島県: 宗像邦司氏(第21回「青年の船」参加者)
原発事故で避難している田村市の小学生のイベントで配布
宮城県: NPO法人まなびのたねネットワーク、Y's mens クラブ(YMCA)仙台広瀬川クラブ
- 「東南アジア青年の船」事業既参加青年の坂本達さんが企画する「東日本大震災の復興を支援するチャリティー・トークイベント2012」と連携し、岩手、福島、宮城のIYEOと連携してそれぞれの

県で講演会が行われました。

9月13日(木) 岩手県立前沢高校

11月14日(水) 船と翼の会ふくしまと公益財団法人福島県国際交流協会の共催イベント

11月16日(金) 宮城県仙台市立高森中学校

- 10月、第25回「世界青年の船」事業ナショナル・デリゲーション・リーダー会議出席者の持ち寄ったコーヒー豆が、岩手県IYEOの縁側カフェ用に提供されました。
- 福岡県IYEOの紹介で、150個のネックウォーマーが提供されました。福島県飯館村の飯館中学校と福島から山形県米沢市へ避難されている方々に寄付されました。(11月中旬)
- 平成25年1月、メキシコ在住のIYEO会員より、コーヒー20kgが寄付され、岩手県IYEOの「縁側カフェ」に提供されます。

IYEO本部での取組については、以下をご覧ください。

⇒<http://www.iyeo.or.jp/ja/shien/index.htm>

第5回「青年の船」5組の集い(ミニ京都大会)開催報告

京都府IYEO
第5回「青年の船」5組14班
大会代表幹事(京都) 奥西 伊佐男

さくら丸の最後のクルーズとなった第5回「青年の船」は、東南アジア6か国を54日間の航海で歴訪、あれから41年、若かった仲間も還暦を迎え、セカンドステージを歩み出しました。5回生としての事後活動を回顧するとき、とりわけ当時の訪問国ビルマ(現ミャンマー)の印象は強烈で、下船後、まもなく子供たちに100万本の鉛筆を送る活動を全国に展開し、目的を達成したこと、近年では、スマトラ沖大地震での津波で甚大な被害を受けた訪問国スリランカに「船」関係の大会等の機会を通して地道に義捐金を募り、現地へお見舞いと視察を兼ね、仲間を介してボランティア団体に届けた活動等が思い出されます。

下船後、5回生は今なお全国各地でそれぞれの分野で、培った経験と誇りを持って事後活動に通じる日々を展開中ではありますが、「集い」を重ね、最近では30周年大会の兵庫(舞子ビラ)から山口、東京、一昨年の北海道(釧路)での40周年大会と続き、今回は福岡での開催に向けて、準備が進められています。また、その狭間には、各大会への懸け橋として5組ではミニ大会との位置づけで、愛知、石川、群馬と「集い」が定着し、昨年は8月末の残暑厳しい京都に39

名が集いました。仲間の絆は、班から組へ、そして5回全体に広がり、一体感が生まれていることを「集い」を重ねる度に感じています。そんな折、内閣府青年国際交流事業の継続に関して厳しい評価を受けている現状下にあります。グローバル化された国際社会で、次代を担う若者のリーダーシップを育む人材育成にもこの事業は不可欠であると思います。

今大会でも現状に触れ、「船」が私たちに与えてくれたもの、訪問国も含め、全国に強固なネットワークの構築ができたことも大きな財産です。その中で築いてきた事後活動での成果を考えると、後に続く若者のためにも事業復活を願い、私たちは各地で身の丈に合った事後活動を今後も展開していく必要があることを訴え、再認識した「集い」でもありました。

大会は参加者39名全員がタイムトンネルをくぐり抜け、船内に戻った気分(?)「二次会」でも心ゆくまで語り合いました。

今後はひたすら健康で長生きし、不変の仲間の友情と結束を確認、今後何をすべきかを考え、目標に向かって人生を元気に歩むことを実感した、とても有意義な楽しい「集い」であったと参加者全員に感じてもらった「ミニ京都大会」であったことを申し添え、報告とします。



第7回「青年の船」39周年 チャリティー東北大会開催報告

実行委員会一同

我々第7回「青年の船」団員の中で一番若かった者も60歳を迎え、これから第2の人生を楽しみにしていた矢先、平成23年の東日本大震災が発生し、東北地方の団員の中には、家を流された者、家族を失った者もあり、被災者となってしまいました。

7回生は25周年の記念大会の後、毎年各県の団員が幹事となり、持ち回りで全国大会を開催してきましたが、平成23年の大会において、「東北地方の震災被害に対する支援として7回生として何かできることがあるのではないかと」「復興支援の一助にもなることから、東北地方で大会を開催することとしてはどうだろう」「もちろん団員個々では被災地に対し支援を行っていることがあるのではないかと」等々の話があり、東北地方で大会を開催することとなったのですが、例年通り、開催地の団員が幹事となり開催することは、震災から2年近くが過ぎているとはいえ、まだまだ行えるような状況にはありませんので、東北地方出身

者で東北地方以外に住んでいる者が中心となり、皆が手伝い、山形県で開催する運びとなりました。

開催日当日1年ぶりに会った団員、又久しぶりに会った団員とその家族、下船後初参加の団員が楽しい一時を過ごしたことは言うまでもありませんが、やはり話題は被災地のことになり、被災地から参加してくれた団員による震災当時の様子が報告され、改めて震災の恐ろしさ、悲惨さを痛感しました。

開催に当たり、復興支援の募金を募ったところ、皆快く募金に応じてくれ10万円を超える募金が集まりました。

大会の翌日、有志が被災地の状況を見て回りましたが、こ

の世のものとは思えない想像を絶する光景で、筆舌に尽くせないほどの有様でした。震災から2年近く経つというのに復興には程遠いことがよく分かり、今後ますます7回生として被災地を応援していかなければならないことを痛感した大会となりました。



(財) 青少年国際交流推進センター タイ王国・スタディツアー2013

For Hopeful Children Project (FHCP) 2013へのボランティア活動参加

参加者募集!

(財) 青少年国際交流推進センターでは、タイで行われる青少年健全育成プロジェクト「For Hopeful Children Project(FHCP) 2013」に参加し、ボランティア・スタッフとしてプロジェクト実行委員と協働するスタディツアーを実施します。

FHCPでは、タイの孤児や障がいを持っている等の理由で社会的に恵まれない状況にある子供たちを「希望あふれる子供たち(Hopeful Children)」と呼び、普段は施設等で生活する子供たちに海軍の協力の下、数日間にわたり、ワークショップや海水浴体験等の機会を提供するもので、このプロジェクトへの参加を通じて、自分たちを思う人の存在に気づき、自信をもって育ち、競争社会においてしっかりと成長するきっかけとなることをねらいとしています。



*写真は昨年度のものです

【研修企画】 (財) 青少年国際交流推進センター

【後援】 日本青年国際交流機構
「東南アジア青年の船」事業タイ事後活動組織(ASSEAY Thailand)

【旅行企画・実施】 トップツアー(株)新宿支店

【日程】 平成25年3月18日(月)～3月26日(火)(バンコク集合・解散:9日間)

【参加費】 54,000円

<参加費に含まれるもの>

・ 宿泊費8泊分(バンコク3泊、カーンチャナプリー2泊、チョンプリー3泊)

・ 全員で行動する際の食費(自由時間中の食費は除く)

・ 3/19～25移動費

・ FHCP 2013への拠出金

※バンコク集合場所までの航空券・交通費、海外旅行保険については、参加者本人の負担とします。航空券は基本的に参加者本人が手配しますが、希望者には(財)青少年国際交流推進センターが実費で手配を代行します。

【申込締切】 平成25年2月11日(月・祝)

【問合せ先】 (財) 青少年国際交流推進センター タイ王国・スタディツアー担当: 赤松

Email: fhcp@iyeo.or.jp

(財) 青少年国際交流推進センター主催

第6回「国際交流リーダー養成セミナー」開催のお知らせ

国際交流事業に職業もしくはボランティアの立場でかかわっておられる方に好評をいただいている「国際交流リーダー養成セミナー」を本年も開催します。プログラム内容及び申し込み方法の詳細は追ってウェブサイト等でお知らせします。

日時: 平成25年3月23日(土)～24日(日)

会場: 東京都内

問合せ: (財) 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436



*写真は昨年度のものです

今月の表紙

IYEOが支援している「One More Child Goes to School」(スリランカ教育支援プログラム)の子どもが描いた絵です。



編集後記

本号の表紙を飾っているスリランカの子どもたちが描いてくれた絵が事務所に届き、子どもたちを支援してくださっているペアレンツにお届けするために、整理しながら、絵を眺めていました。どの絵も非常に生き生きしており、一緒に絵を見ていたスタッフが「この絵を描いてくれた子どもたちは、物質的には恵まれていないかもしれないけれど、精神的には満ち足りた生活をしているんでしょうね」と言っていました。次号の表紙もどうぞお楽しみに。(ふ)

MACROCOSM 1月号 vol.100

2013年1月31日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 (財) 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centrye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 **本体191円**

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議からご出張まで、
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

03-5348-3500



10450055(02)
JISQ15001:2006準拠

そのにっぽんでは、 大人が楽しく生きている。

NIPPON MARU

春の対馬・濟州島クルーズ 5~6日間 ～スペシャルエンターテイメント～

2013年
Aコース 3月26日(火)～3月31日(日) 横浜～神戸～対馬～濟州島～横浜 6日間
Bコース 3月27日(水)～3月31日(日) 神戸～対馬～濟州島～横浜 5日間

船内の春らんまん。

- 春の瀬戸内海航行中に神楽弁当を船内のお好きな場所でどうぞ
- にっぽん丸お花見会を開催
- スペシャルエンターテイナーには「小椋佳」が登場
- 濟州島では、世界遺産・城山日出峰の前に広がる菜の花畑にご案内
※花の見頃は例年と異なる場合があります。

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)
140,000円～1,000,000円



エンターテイナー
作詞・作曲家
小椋 佳

ウィークエンド 伊豆諸島周遊クルーズ 3日間

2013年 4月12日(金)～4月14日(日) 横浜～横浜

東京シティ・フィル・弦楽アンサンブルと楽しむ週末3日間。

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)
78,000円～400,000円

- 1日目ポピュラーナイト、2日目クラシックナイトのほか、一緒に演奏、1分間指揮者コーナーなどのワークショップも
- にっぽん丸総料理長がお届けするスペシャルディナー
- にっぽん丸特製神楽弁当をもって洋上ピクニック



エンターテイナー
東京シティ・フィル・
弦楽アンサンブル



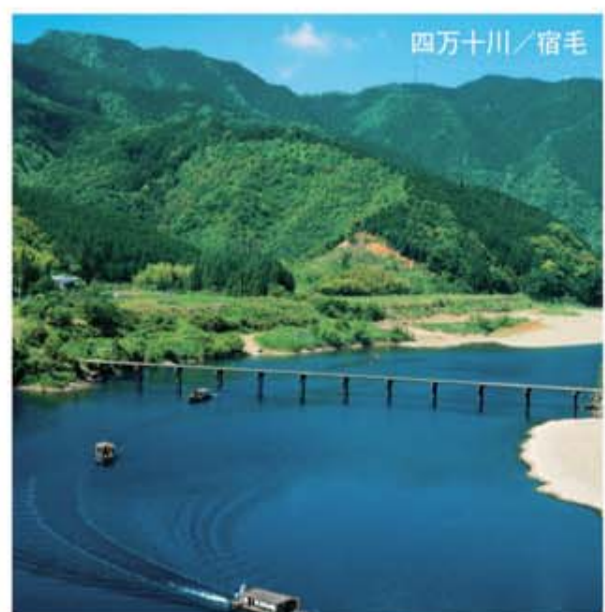
神戸発着 春の屋久島・四万十クルーズ 4日間

2013年 4月23日(火)～4月26日(金) 神戸～屋久島～宿毛～神戸

屋久島、四万十、美しい自然を知る船旅。

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)
120,000円～600,000円

- 宿毛港から四万十観光の玄関口へシャトルバスでご案内(追加料金なし)
- 屋久杉(土埋木)で作ったにっぽん丸オリジナル箸のプレゼント
- 屋久島自然観察員の第一人者・大野睦と行く女性だけの白谷雲水峡ツアー



エンターテイナー
歌手
MINEHAHA

名古屋発着 珍島の海割れと瀬戸内海クルーズ 6日間

2010年 5月24日(金)～5月29日(水) 名古屋～木浦～名古屋

名古屋から、感動の海割れへ。

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)
200,000円～1,000,000円

- 自然が生み出す神秘、海割れへご案内(追加料金なし)
- 船内では韓国舞踊団が伝統舞踊を披露
- 航海中はいつもと違うスペシャルアフタヌーンティーをご用意



エンターテイナー
バンドネオン奏者
小松 亮太



※表示の代金はコンフォートステートグループ3(1室3名利用)～グランドスイート(1室2名利用)の大人お一人様(船内食事付/消費税込)旅行代金です。 ※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問い合わせください。 ※掲載の写真はイメージです。

商船三井客船
〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三會堂ビル5F

お問い合わせ・お申込は商船三井客船クルーズデスク
0120-791-211

URLが変わりました
<http://www.nipponmaru.jp>

JATA ボンド保証会員